

第1学年 音楽科学習指導案

日時 平成17年11月1日(火) 5校時

学級 1年1組 男19名 女20名 計39名

場所 水沢市立南中学校 第1音楽室

指導者 教諭 村山和代

- 1 題材名 イメージと音楽 ~物語(詩)から生まれる表現の工夫~
主教材 独唱「魔王」 シューベルト作曲

2 題材について

(1) 教材観

学習指導要領の第1学年の鑑賞の内容(1)アとイによると、「声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと。」「速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くこと。」とある。前者アは主に「構成要素」を、後者イは主に「表現要素」の指導内容を示している。いずれも、感性的側面(雰囲気・曲想・豊かさ・美しさ)と互いにかかわりあい、音楽として成り立っている。人が音や音楽を感じる時、まず聴覚で聴き、それが大きい音が明るい音かなどと音を具体的に知覚する。そして、何で演奏され、どんな曲なのかということがわかる。こういう過程を意識的に積み上げていくことにより音楽の感性がより磨かれていく。感性の能力を育成するには音楽の構成要素や表現要素を知覚させ音楽のイメージや感情を感じ取らせることが必要である。このような音楽を形づくっている諸要素を感じ取る能力が音楽の基礎的な能力となる。このことを踏まえ、本校では、基礎・基本の定着を図るために、諸要素の工夫を感じ取る活動を重点に取り組んでいる。

「魔王」はシューベルトが18歳のときにゲーテの詩に出会い、深く感銘を受け作曲した歌曲である。詩と音楽が一体となった劇的な効果に、また演奏者の表現のすばらしさに引き込まれる作品で、生徒たちにたいへん親しまれ好まれている曲である。「魔王」の歌曲としての美しさや劇的な効果を生み出す要素はさまざまある。その中でも登場人物の言葉をあらず部分は音の高低や調性<旋律>によって書き分けられており、それぞれの登場人物の心情の変化が音高や音域などで表現されている。伴奏は馬の蹄の音を3連符の<リズム>で表現し、また風が吹きぬける音<音色>など表現の工夫をとらえやすい特徴がある。また、歌い手は語り手を合わせて4人の声の変化を歌い分けることが要求されており、表現の工夫<強弱の変化>やおもしろさを味わうことができる。シューベルトの作品の特徴は、詩と音楽性を重視し、声と伴奏が一体となった独特の作風になっているので歌曲という様式を理解し、詩と歌と伴奏とのかかわりを感じ取ることができる。

このことから、本題材では、音楽の構造的側面(構成要素<音色、リズム、旋律>、表現要素<強弱、速度>)を知覚し、音楽の感性的側面(雰囲気・曲想)をイメージや感情を持って聴く力を身につけさせたい。そして、日常での歌唱表現(合唱活動など)の気持ちをこめて歌うといった、気持ちに合った声の表現の工夫につなげていきたい。

(2) 生徒の実態

本学級は、学習に対してまじめに取り組む姿勢があり、課題解決に向けて真剣に取り組む。表現活動では、パート練習での意見交換や話し合い活動ではお互いの意見を聞きあい、協力する気持ちの育った生徒たちが多く、授業のはじまりの準備はすばやく、スムーズに授業開始ができる。また、忘れ物などはほとんどなく、基本的学習規律が定着してきている。しかし、歌唱表現や合唱活動において、「こうしたい」という思いがあってもなかなかそれが、表現できず試行錯誤している生徒が多い。それは、表現するための具体的な手立てや方法がわからないためである。このことを改善していくためには構造的側面を知覚するといった部分を意識的に取り入れていくことが必要である。また、意見を交わす場面で、積極的に意見を述べる生徒が固定化してきている。このことから、多くの意見から課題解決をしていく能力を育てていきたいため、グループ学習を取り入れ指導していきたい。

(3) 指導観

本校の生徒が持ち備えた音楽への興味・関心を、表現する力につなげていくためには、音楽から生み出されるさまざまな諸要素の工夫を見つけ出し、音楽の中でどのように生かされているか、本教材での物語を手がかりにさぐり出すことでより具体的な表現の工夫に迫ることが必要である。その過程にグループでの練りあいを取り入れ、固定化していた発言を全体としての意見にまとめていくことで、個人の考えもより幅広くなり、表現の工夫に対する意識が高まり、音楽に対する感性の高まりが学級全体に広がっていくことをねらいとしている。このことが本校音楽科テーマである「進んで音楽活動をしようとする生徒の育成」につながっていくと考える。

3 題材の目標及び評価計画(2 時間扱い)

題材の目標

- (1) 表現の工夫から生み出される曲想と物語(詩)の関わりに関心を持って意欲的に聴く。
- (2) 声やピアノ伴奏の音色、リズム、旋律、速度、強弱を知覚し、物語(詩)を表現するための工夫を感じ取る。

	音楽の関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	鑑賞の能力
評価 規 準	歌曲と音楽の関係に関心を持ち、音楽の構成要素や表現要素を意欲的に聴こうとしている。	構造的側面の働きと効果を知覚し、表現効果を感じ取っている。	構造的側面の働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を意識して聴くことができる。

時	学習内容	観点	評価場面 (評価方法)	具体的評価規準		努力を要する生徒への 対応・手立て(c)
				A	B	
1 (本時)	「魔王」を聴いて、構造的側面の表現の工夫を感じ取る。 物語の内容から情景を想像する	関心・意欲・態度	歌曲の鑑賞場面 (観察・学習プリント)	構成要素や表現要素の表現の工夫をより細部にわたり聴くことに意欲的である	構成要素や表現要素の表現の工夫を聴くことに意欲的である	構成要素や表現要素の表現の具体的な工夫を教え自分なりの聴き方をさせる
		音楽的な感受や表現の工夫	表現の工夫を考える場面 (学習プリント・発言) 物語から生まれる表現の工夫を感じ取る (学習プリント・発言)	歌い方の変化やそれによっておこる曲想の変化を感じ取り、物語やその情景を味わいながら表現の工夫について聴く	歌い方の違いを感じ取り物語やその情景を味わいながら聴く	歌い方や曲想の変化を感じ取ることができない生徒には具体的に変化の様子の例を挙げ聴き取らせる
2	物語の情景をあらわすための表現の工夫を聴き取る	関心・意欲・態度	歌曲の鑑賞場面 (観察・学習プリント)	構成要素や表現要素によって生み出される曲想の変化をより細部にわたり関心を持ち意欲的に聴いている	構成要素や表現要素によって生み出される曲想の変化に関心を持ち意欲的に聴いている	前時の学習内容を想起させ(学習プリントを見ながら)確認させる
		鑑賞の能力	表現効果をまとめる場面 (学習プリント)	曲を聴いて楽曲の雰囲気や曲想の変化を作曲家や楽曲の特徴と関わらせてまとめることができる	曲を聴いて楽曲の雰囲気や曲想の変化について特徴をまとめることができる	グループや全体の意見交換の内容をもとに自分の考えをまとめさせる

4 本時の指導

(1) 研究主題との関わり

ア 基礎・基本の重点

- (1) 音楽を聴こうとする意欲や態度
- (2) 構成要素(音色・リズム・旋律)と構成要素(速度・強弱)の工夫を感じ取る力

イ 課題解決を図るための指導過程の工夫

学習プリントの内容を学習の流れに沿って作り課題に取り組みやすいようにした。特に課題解決の手助けになるよう、小グループでの練りあいの場を設定し、個人・グループ・全体の考えをそれぞれ書いていくようにした。メモ活動のような形にし、あまり書くことに負担をかけないように配慮をすることが必要である。

ウ 評価を生かした指導の工夫

- (1) 自己評価の項目を評価規準の項目とほぼ同じにすることで生徒の個人内評価と指導者の自己評価に役立てていけるようにした。
- (2) 課題解決場面の個人からグループへそして全体といった学習過程と同様に、学習プリントを作成することにより、課題に向かう生徒の記録がそのまま残され生徒のつまずきの部分が発見できるようにした。

エ 定着を図る工夫

「音楽を聴き、構造的側面を知覚し表現の工夫を感受する。そして、聴き取った内容を学習プリントにまとめる。」こういった積み重ねをすることで、音楽の「聴き方」の定着が図られるようにした。

(2) 展開

段階	学習過程	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	1 教科書の楽譜を見て、音楽を心の中に浮かべる 2 原語で歌曲の鑑賞 3 演奏形態を知る課題を確認 課題の設定	1 音楽のイメージをもつ 2 原語で歌曲を聴く。 3 4人の声を1人で歌っていることを知り、音色・リズム・旋律・速度・強弱の構造的側面を知覚し、感じ取ることを確認。	<ul style="list-style-type: none"> 声を出さずに心の中で歌わせる 耳を傾けられる状態にする これまで合唱練習で工夫してきた内容を想起させる。 	
声やピアノ伴奏の音色、リズム、旋律、速度及び強弱、またその雰囲気や曲想を感じ取ろう				
展開 30分	4 日本語で歌曲の鑑賞物語の内容を知る 課題の追究 5 表現の工夫に迫る (個人) ↓ (小グループ) ↓ (全体) 課題の解決	4 表現している物語の内容を確認し場面を想像する 5 それぞれの表現の工夫を具体的にどのように工夫しているか学習プリントに書き、グループごとに意見交換する。意見交換の内容をまとめ全体で発表しあい音楽的表現効果の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 予想した物語を確認し、実際はどんな物語なのか興味深く想像しながら聞くことができるよう読み聞かせを行う。 グループごとの意見交換のときに個人の考えの幅が広がるよう発言を活発に行わせる。 	構成要素や表現要素に関心を持って聴いているか <関・意・態> (観察・学習プリント) 構造的側面の働きと効果を知覚し表現効果を感じ取っているか <音楽的な感受や表現の工夫> (学習プリント・発言)
終末 10分	6 物語から生まれる表現の工夫を感じ取る 7 自己評価活動	6 発表しあった内容を手がかりに物語と表現の工夫を照らし合わせ表現効果を意識しながら聴く(感じ取る) 7 自己評価で課題が達成できたかと次時の課題を確認	<ul style="list-style-type: none"> 物語(詩)の内容を表現するための表現の工夫を聴感じ取らせる 次時は音楽全体の魅力を聴き取る 	